

令和5年7月10日

## 7月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では梅雨入り、虫害等の影響で間伐作業や植付け・下刈作業へ切り替える事業者も見られ、原木生産は一時期より少な目である。入荷も間伐材中心で前月より少ない。価格低迷や虫害で小径材等は山土場から木質バイオマス工場に運搬され、市場へのは入荷は減少。スギ材は3m小径材、柱材ともに下げ止まり弱保合、4m中目材はかろうじて弱保合。ヒノキ材は3m、4mとも弱保合で価格は依然下がったままである。

群馬県ではスギ原木がダブつき、3m、4m材とも1万円/㎡を割り込む状況。地場をはじめ首都圏の製品市場向けの売れ行きが悪いため、工場の製品在庫はオーバーフロー寸前。製品価格は依然下げの雰囲気、投げ売りの業者もいるため相場は混乱している。KD材等の製造コストのかかる製品はかなり厳しい状況。

### 2. 米材

米国西岸では依然森林火災防止の入山制限による伐採減少は見られず伐採は順調。一方、カナダでは乾燥が進み、伐採停止のサプライヤーが出始め、今後も続出する可能性が高い。アルバータ州の森林火災は6/30現在も続いており、鎮火には時間を要する模様。米マツ IS級並の7月積み対日輸出価格は、米国側の値上げ要請に対し日本側は製材品市況の不調と円安進行を理由に寄り切り、前月据え置きのお\$940/千SCRで決着した模様。米国製材品市況は5月末に底を打ち上昇中。特にDF製材品は6月末までの3週間で30%の上昇。5月の米国新設住宅着工数(前月比+21.7%)が大きく後押し、産地の原木価格上昇を助長。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(7/4)は\$438/Mで6月頭に比べ13.2%の上昇。7/1にカナダ西岸の港湾荷役労働者組合(ILWU)がストライキに突入し、一部ターミナルが閉鎖されているが、短期での終息が予想されている。

5月原木入荷は142千㎡と低調、カナダから入荷比率も通常の30%程度に戻る。出荷も147千㎡と低調。在庫は増加し187千㎡となり、在庫率は1.18ヵ月と2ヵ月連続で1ヵ月を上回る。製材品需要は依然回復せず、製材メーカーの苦境が続いている。東京木材埠頭の6月製品入荷は12千㎡(前月比10.2%減)、出荷は12千㎡(同6.7%減)、在庫は27千㎡(同0.5%減)。各プレカット工場では仕入に慎重な態度である。

### 3. 南洋材

サラワク州では天候は極めて良好なため、渇水により水上搬送に苦慮するキャンプが出始めた。PNG では6月の天候は5月より回復したものの、依然降雨がある。出材も今一つであるが、5月に比べ回復している。サバ州では天候は良好で、7月中旬に日本向け配船約4,000m<sup>3</sup>が予定されている。集成材を含む製材品入荷は国内需要が低迷しており、買い控えにより契約量は減少している。7月予想の原木入荷10千m<sup>3</sup>、出荷8千m<sup>3</sup>、在庫9千m<sup>3</sup>。製材品入荷は23千m<sup>3</sup>。フリー板市場は依然悪いが、安値での在庫処分の動きは見られない。

### 4. 北洋材

シベリア産地では夏山移行と日本・中国市場の不振により原木伐採量はかなりの低水準。主力シッパーの製材生産量も減少している。コンテナ不足もあり、生産意欲が上がらない。中国市場の回復には一年以上かかるのではと超弱気である。アカマツ原板の交渉シーズンは終了。アカマツ完成品については日本側の値下げ要求に対し、産地側ではSグレードは\$520/m<sup>3</sup>水準からは下げられず、価格交渉は盛り上がらない。現地挽きアカマツ野縁製品はこの円安下でもまだ投げ売りが見られる。代替材に需要を奪われ、円安でコストも下がらず価格競争力が厳しくなっている。北洋材製材各社は減産により耐えているが、販売回復も見込めず厳しい状況が続いている。5月の製品入荷(東京+川崎)は10.9千m<sup>3</sup>と前月並み、6月はさらに減る見込み、出荷は13.9千m<sup>3</sup>と前月並みで回復が見られない。在庫は減少し48.4千m<sup>3</sup>と順調に減少している。

### 5. 合板

東日本のメーカーは原木の仕入価格を維持している。一方、西日本ではヒノキ原木は出材減で値上がりしているが、スギ原木が需給緩和で下落基調にある。この東西の合板メーカーの原木仕入価格の差が今後の合板市況に影響する可能性がある。

5月の国内合板生産量は19.9万m<sup>3</sup>、うち針葉樹合板は19.5万m<sup>3</sup>、出荷量は19.2万m<sup>3</sup>で在庫量は16.2万m<sup>3</sup>、うち構造用合板の在庫は14.0万m<sup>3</sup>と高水準の状態が続いている。針葉樹合板は依然当用買いが中心である。一部で欠品があるもののメーカー側は在庫があり、即納依頼にも対応している。減産を継続する東日本のメーカーは7月の合板販売価格を据え置き、底入れを図る考えを鮮明にしたが、西日本では原木価格の値下がり理由に合板への値下げ要求が続く可能性がある。輸入合板では塗装型枠合板の先安感が消えない。入荷は激減しているが、荷動きが乏しい上に産地価格の底値が決まらないのが背景にある。5月の合板輸入量は前月比0.1万m<sup>3</sup>減の15.0万m<sup>3</sup>となっ

た。インドネシア以外の主要国からの輸入量は増加しているが、前年比 60.9% である。インドネシアでは日本向け以外の価格が安定しているので、値下げに応じる気配は少ない。マレーシアでは受注が以前よりもやや多くなっているものの、生産量を増やすまでには至っていない。

## 6. 構造用集成材

今年第 1・四半期契約分のラミナが順調に入港している。6 月入荷は通常の 5~6 割と少ない。在庫も例年通りに戻りつつある。第 2・四半期契約は前期から€15 程度アップの€280/m<sup>3</sup>程度で決着。第 3・四半期契約は横ばいが予想されている。オファー量は欧州の休暇時期と重なるため、減少の見込み。6 月時点のラミナ入港価格は 47,000 円/m<sup>3</sup>程度で、7 月以降も横ばいの見通し。5 月の構造用集成材の入港量は 4.1 万 m<sup>3</sup>で、4 月に引き続き低水準である。国内集成材メーカーの製品在庫は適正水準に向かいつつある。

## 7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引合は強いが、入荷低調で原木不足感が強い。解体材は一部で処分費値下げによる集荷増の動きがある。製紙用チップは大手製紙会社の大型定期修理の連続で消費量は一時的に減少。特に N 系ピンチップの余剰感が強い。同様に燃料用も大型定期修理、ボード会社の火災等で消費は一時的に減少。在庫は原料、燃料とも若干の在庫積み増しは可能だが、長期的には不足感が否めない。

## 8. 市売問屋

7 月に入っても電話での問い合わせが少ない。当用買いが中心で市況は良くない。スギ、ヒノキ構造材の荷動きは材木店の仕事が細かいため悪い。外材構造材も同様である。造作材は国産材、外材とも荷動きが悪い。材木に不足感が見られず、単価も値下がり気味になっている。

## 9. 小売

住宅需要が低調なまま推移しており、梅雨入りもあって資材販売の環境は厳しい。木材製品も荷動きに活発さがなく、総じて弱含みないし保合の基調。国産材構造材はスギ、ヒノキとも弱保合が続いている。販売不振から出荷価格を下げる製材工場も見られる。WW 集成管柱などの外材構造材は為替動向や在庫減少、入荷見通しを理由に下げ止まり感が浸透してきたが、実需が弱いため、値上げに持って行くには難しい状況。米材造作材ではスプルースクリア盤、米ツガクリア盤とも入荷が少なく強保合で推移している。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↗	→	↗
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	↘	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↘
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↘
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	↘
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↘
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↘			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
		//	10.5×10.5×2.98m	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↘
	欧州産	//	型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↘
		//	型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→